No.50
2016.11.1.発行

帝人株式会社
帝人グループフェロー

近藤 史郎氏 (高校24期)

1972年　立川高校卒業
1977年　東京教育大学理学部　卒業
1980年　東京工業大学理工学研究科　修了　帝人株式会社　入社
2006年　帝人ファーマ株式会社　創薬研究所長
2009年　帝人株式会社　近藤研究室　室長

＜はじめに＞

皆さんこんにちは。現在私は化学系の会社で新薬の研究開発などをしています。痛風という病気は、皆さんの世代にはほとんど馴染がないですが、日本で生まれた新薬として現在世界中で使われているフェブリクという薬の発明や開発に携わってきました。

＜高校時代＞

私が入学した1969年は、前年から拡大していた大学紛争の火の粉が高校にも及ぶようになり、立川高校でも一部の運動家による演説やバリケード封鎖などがありました。反戦や政治問題で難解な言葉を駆使して訴える先輩たちに、中学生意識の残る自分にはまぶしく映る部分もありましたが、次第に意識のずれを感じ、遠ざかるようになりました。もともと自由な校風で自主性を重んじる風潮がありましたが、紛争解決後は生徒も先生方も現状を見直し、より良い風土や親密な関係を築くことができるようになったのではないかと思います。

私はバレーボール部に属していたので、あまりそうした活動に参加することもなく、ひたすらボールを追っていました。週4日の練習とは言え、結構きつかったため勉強する余裕もなく、授業について行くのがやっとでした。運動系のクラブでは、「現役で合格するのは練習をさぼった証拠」などと揶揄されていたので、それをいいことに勉強は二の次でした。（もちろん、ちゃんとした方は現役で進学していますので、何事も意識を高く持って取り組むことが大事です。）そんな状態ではありましたが、何となく化学が面白そうで、大学に行ったらしっかり勉強しようと思っていました。

＜大学から社会人＞

とはいえ、大学も3年生ぐらいまで運動部に属していましたし、周遊券旅行やら麻雀などであまり勉強していたとは言えないのですが、4年生になって研究室に入るころから有機化学や生化学の面白さを再認識しました。大学院では昼夜を問わず実験を行い、製薬会社で薬を作ってみたいと思い始めました。現在の会社が医薬事業に注力するとのことで就職し、以来この分野に30数年以上、身を置くことになりました。幸い、立川高校OBの山口久夫先輩（高校11期）が同じ部署にいらしたので、薬の研究の考え方や技術などをいろいろ教えていただきながら一緒に研究させてもらいました。ひたすら失敗の積み重ねではありましたが、運よく世の中に製品を出すことができました。人と協調しながらも、少し違った見方をしたり、自分が納得するまで掘り下げてみたりすることが大事だと思っています。

発明協会の内閣総理大臣賞を受賞
中央が筆者、左側に山口久夫先輩と奥様

「フェブリク」と近藤氏のプロジェクトストーリーはこちら　http://www.teijin-pharma.co.jp/project/story01.html